ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

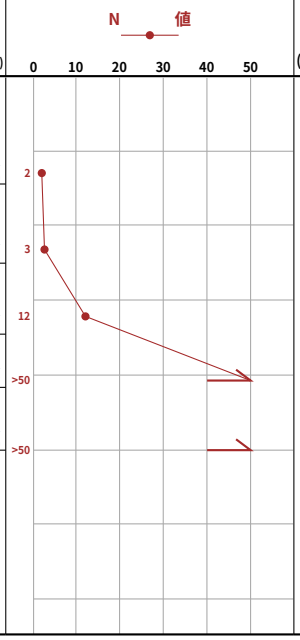
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-1	調査位置				北　緯	36 ° 45 ’ 35.7900 ”
発注機関	栃木県矢板土木事務所		調査期間	2008-12-22 ～ 2008-12-23		東　経	139 ° 50 ’ 42.8400 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	258.89 m	角度	180° 上 下 90° 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 29.00 °
総掘進長	7.00 m	使用機種	試錐機		ハンマー落下用具		
			エンジン		ポンプ		

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	257.54	1.35	1.35		黒ボク (Kb)	暗褐	非常に緩い	軟らかい	上部20cm程度は植物根多量に含み、非常に緩い。以深、全体に有機質を呈し、含水中位でやや軟らかい。0.9m付近からφ10mm内外の黄色軽石粒を点在。		
2	256.59	0.95	2.30		ローム (Lm)	茶褐			含水・粘性共に中位でやや硬く、赤・黄色の軽石粒を不均質に散在。		
	256.39	0.20	2.50		スコリア (Sc)	暗灰			φ1mm内外の火山細礫と火山砂による。		
3	255.64	0.75	3.25		ローム (Lm)	茶褐			含水・粘性上位で軟らかい。少量の軽石粒やスコリア粒を混在。		
4					溶結凝灰岩 (Wtf)	淡灰			上部40cm間、岩芯に至り風化が進行し、非常に脆弱な土砂状コアにて採取される。		
						灰			4mまでは密着した亀裂の発達により、3～5cmの短棒状コアとして採取。コア自体はハンマー打撃で容易に割れない状態を呈するが、弱風化・弱変質により、硬度に些かの軟化を感じる。		
						褐灰			4.00～4.25m間、風化・変質を強く受け、粘土質砂状を呈する。		12/22
5						暗青灰			以深、非風化・非変質に近い状態で亀裂も非常に少なく、50cm以上の棒状コアとして採取される。ハンマー打撃では「金属音を発し、強打撃で割れる：中硬区分」。		
6											
7	251.89	3.75	7.00								12/23

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)
1.15	1／15		1／15	2／30
1.45				
2.15	1	1	1／15	3／35
2.50				
3.00	00／25	8	10	18／45
3.45				
4.00	50／17			50／17
4.17				
5.00	50／0			50／0
5.00				



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日